



きりえ「ノイバラ咲く和白干潟」：くすだひろこ

希望に向かって歩こう！

★ 新年 おめでとうございます！！★

2022年1月

昨年も世界中で新型コロナウイルス感染症が流行しました。日本でも年末年始、5月、8月に感染拡大の山が来ました。緊急事態宣言も出され、和白干潟を守る会では多くの活動が制限され、和白干潟まつりも中止いたしました。昨年10月からは感染が収まってきています。このまま収束するように願うばかりです。しかし世界ではまだまだ感染が続いており、新変異株「オミクロン株」が広がりだしました。新年になり、日本でもオミクロン株の拡大が見られます。感染対策をしっかりと、感染拡大しないように頑張りましょうね！

和白干潟を守る会の環境保全活動は、34年目を迎えます。大切な和白干潟の自然を未来の子どもたちに残すために、これからも環境保全活動を続けていきます。今年こそは楽しい和白干潟まつりを開催しましょう！守る会では新しいメンバーも加わって、嬉しい限りです。今年はどんな活動ができるか楽しみです。

今冬、ミヤコドリは22羽が和白干潟に来ており、クロツラヘラサギも18羽を確認しています。ツクシガモは飛来が遅かったけれども、今年1月1日に255羽を確認しました。今冬はズグロカモメも7羽が飛来しました。

2022年を迎え、世界の湿地や干潟の保全が進むことを心から願っています。34年目の今年も、和白干潟を守る活動に皆さまのご協力をお願いします。多くの方が和白干潟の環境保全活動に参加して、和白干潟がぜひ「ラムサール条約登録湿地」となることを願っています！今年もどうぞよろしくお願いいたします！

和白干潟を守る会 代表 山本 廣子

昨年はコロナ感染予防のために「第33回和白干潟まつり」が中止になりました。干潟まつりのステージで毎年開催していた紙芝居の原作をご紹介します。

コメツキガニのたび ～ ひがた の なかまたち ～ くすだ ひろこ さく・え

砂の干潟で生まれたなかよしの2匹のコメツキガニが干潟のたびをして、たくさんの干潟の生きものに会っていく物語です。生きものたちの生態も分かります。英訳文も一緒に書かれています。

画面は青と黒の和紙で作ってありますが、和紙を重ねて青の濃淡とモノトーンの五色のきりえになりました。リズムカルな線で描かれたバックは優しい波や風、ある時はコメツキガニたちの感情となって現れます。力強い線でカニや出会う干潟の生きものたちがいきいきと描かれていて、いつのまにか物語に引き込まれ、読み終わるとコメツキガニや干潟の生きものに会いに行きたくなります。



絵本「コメツキガニのたび」

ひがた だいすき! くすだ ひろこ 作・絵



絵本「ひがた だいすき!」

和白干潟のそばで育った干潟が大好きな美海^{みうみ}ちゃんが、いとこの周くんに干潟で遊びながら干潟の生きものを紹介していきます。干潟の周りの風景も美しく二人を見守っています。

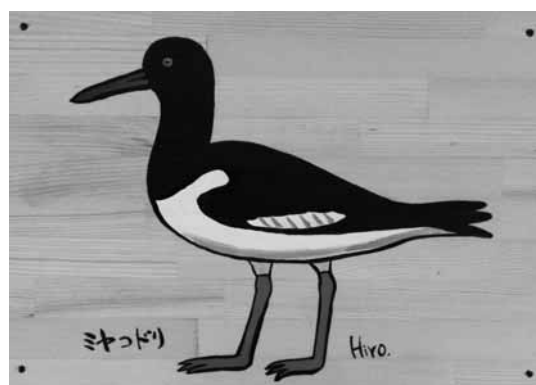
淡い色合いの和紙のきりえで、干潟の生きものたちがかわいくて、読んでいて優しい気持ちになりました。美海ちゃんは作者の分身です。和白干潟の生きものと楽しく遊んで、生きものも和白干潟も大好きになって、守ってほしいとの願いが込められています。

和白干潟の秋 くすだ ひろこ 作・絵

秋の和白干潟で見られる草花や生きものがいきいきと描かれています。もとは「和白干潟まつり」のステージの前に置かれた椅子に描かれたものでした。せっかくなので写してそれぞれに説明文を付けて紙芝居にしました。

鳥たちが楽しそうに遊んでいて、コメツキガニもかわいいです。生きものたちの特徴がわかりやすく描かれています。

好きな食べ物や鳴き声なども興味深く、生きものたちを身近に感じられます。干潟の生きものたちの元気な姿に会いに来てね!と呼んでいるようです。



紙芝居「和白干潟の秋」

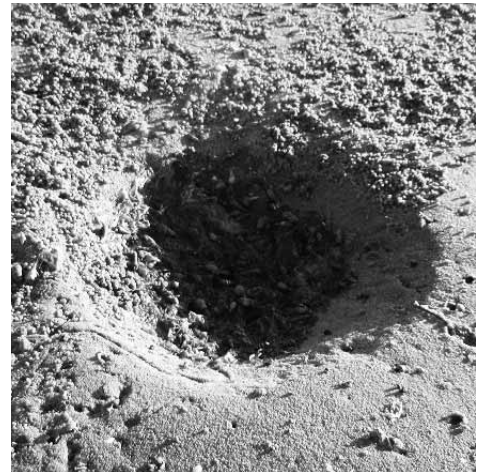
和白干潟のふしぎ

(山之内 芳晴)

「干潟のくぼみ」だれがつくったの？

干潟に入ると直径20～30センチくらいのくぼみがたくさん見られます。潮干狩りに来た人がアサリ掘りをした跡のようにも思えますが、アサリがない浜辺の近くにもありますし不思議なくぼみで、干潟を歩く時やアオサの回収作業でそりを引く時にも邪魔になります。

そんな中、テレビのニュースで瀬戸内海のアサリ漁場でナルトビエイによるアサリの食害問題が報道されていました。エイが口で干潟の砂をすくい上げるようにしてアサリを砂ごと捕食している光景でした。和白干潟にはナルトビエイはいませんが、アカエイがいます。アカエイのことをネットで調べて見ましたら、貝類や甲殻類、小魚などを食べるとのこと、干潟のくぼみはアカエイが掘ったものだったんですね。



エイが掘った穴

誰が残したの「道路上の砕けた貝殻」？



カラスがオキシジミを食べたあと

海の広場のコンクリートのゴミ置き場や唐原川河口の道路上には、砕けた貝殻が見られます。この砕けた貝殻は、カラスがオキシジミ（貝）を上空から落とし、砕いて中身を食べた後です。食べる貝はオキシジミで、アサリは食べてはいないようです。おそらく、アサリ貝は小さくて上空から落としても割れにくいことを体験しているのでしょうね。私たちでも干潟のオキシジミを探し出すのは難しいのに、それを探し出す嗅覚、コンクリート舗装の場所で貝を砕く知識など、カラスって本当に学習しているんですね。

「この糞塊」だれが残したの？

夏の和白干潟の沖合いの干潟を歩くと、大きな糞のかたまり（2cmくらい）がたくさん見られます。干潟の生きものの中でも一目で判るタマシキゴカイの糞塊です。

タマシキゴカイは、体長は6～30cmで和白干潟では沖合の砂泥地に住み、泥の中に深いU字型の棲管を作り砂を食べて有機物を消化したあと、外に砂の糞を積み上げます。こうして海を浄化しています。タマシキゴカイは、畑で言うミミズのような存在です。繁殖期は4～9月で、球形の寒天質の卵塊を砂の上に産みます。卵塊の中で多くの卵が孵化し成長して、小さな仔虫（こむし）になってから水中に泳いで出るそうです。



タマシキゴカイの糞塊

★ 和白干潟の自然だより (秋～冬) ★

(山本 廣子)

ノイバラの実 (バラ科)

ノイバラは草原や川岸に生える小低木です。和白干潟ではアシ原の奥の草地や樹林帯の縁でたくさん見られます。茎は上に伸び、大きなやぶになります。また テリハノイバラは海岸に多く見られ、地を這うように広がります。和白干潟沿岸にはこの両方が生えています。5～6月頃に直径2cm程の白い花が咲き、花弁は5枚です。多くの花が円錐形に集まって咲きます。良い香りがして、和白干潟沿岸が白く見えます。秋になると、赤い実がたくさん生ります。茶色に枯れたアシ原の中で、赤い実は 宝石のようです。



ノイバラの実



アオサとホトギスガイ

アオサ (アオサ科)

和白干潟では1960年代から見られていましたが、福岡市の人口が増えて家庭排水が博多湾を汚染するようになり、博多湾の開発で海水を浄化する生きものたちが減って博多湾が富栄養化し、アオサの仲間が大量に増えてきました。異常繁殖しているそうです。アオサの体は膜状で、広がって大きくなります。20～30cmからもっと大きくなります。大きくなるにつれて体には大小の穴がたくさん空きます。ちぎれたアオサは潮や風に流されて、沿岸に積もります。昨年秋には30cm以上もの高さにまで堆積しました。このアオサの下でカニや貝は死んでしまいます。アオサ自身も腐ってヘドロの海底を作ります。私たちはアオサが異常繁殖しないような水質に戻す努力が必要です。

ミユビシギ (シギ科) 全長：19cm。 福岡県 準絶滅危惧。

ミユビシギは和白干潟には冬鳥として渡来します。ハマシギと一緒に行動していることが多く、ハマシギの薄茶色の羽色の中で、白っぽいミユビシギは目立ちます。水際を走り回って、貝類や甲殻類を採っているそうです。チョコチョコと走る姿はとても可愛いです。ハマシギやシロチドリなどと混群を作って干潟上を飛び回りますが、方向転換の時に一斉に白く光ってとても美しいです。以前は100羽前後が訪れていましたが、近年は羽数が減ってきて越冬が記録されていない年もあります。ハマシギやミユビシギであふれる和白干潟が戻りますように！



ミユビシギ

★ 和白干潟と私 ★ 4



1970年頃、海への旅の一コマ

高校を卒業した私は、東京へ絵の勉強に行きました。1970年頃は日本の高度経済成長期で、電化が進み電気洗濯機に合成洗剤が使われてそのまま川へ排水されており、多摩川の河口堰はシャボン玉が飛んでいたり、奇形の魚が釣れたりしていました。学生運動も盛んで、大学はロックアウトされて、私はアルバイトをして全国の海や山を訪ねました。日本の周りを囲む海ではオホーツク海、日本海、太平洋、瀬戸内海、東シナ海などを見て回りました。どの海も好きでしたが、私の心の原点は和白干潟の優しい海でした。山も色々登りましたが、原点には故郷の立花山がありました。日本の中心にある東京から沖縄や北海道にも、便利に行くことができました。私は海や山が大好きで、日本全国の自然に触れたいと思っていたのです。もちろん東京でしかできない絵の勉強も頑張りました。たくさんの経験をして、25歳の時に、故郷の和白に帰ってきました。その時に、和白干潟が全面埋め立てられる計画があるのを知ったのです。(山本 廣子)

★10/22 第9回「唐原川 お掃除し隊」(山・川・海の流域会議主催) 13名参加

10月になり急速にコロナが落ち着いてきたので、予定通り実施することが出来ました。参加者は昨年の半分程度と少ない状況でしたが、好天に恵まれ無事終了いたしました。

ゴミ回収量は(燃えるゴミ:10袋、燃えないゴミ:6袋)と大幅減となりましたが、春に地域住民による川底の清掃活動が実施されており、「唐原川お掃除し隊」も9年目を迎え毎年清掃を実施しているので、川底が綺麗になっているのだと思います。

コロナの為、最近の2年間は上流が手つかずの状態なので、来年こそは上流も実施できるよう努力したいと思います。(松田)



★九州産業大学 特別講義「和白干潟の自然と地球の未来について」

49名参加(リモートを含む)



九州産業大学の地域づくり学科の授業で「和白干潟の自然と地球の未来について」と題し、山本代表が和白干潟について講演をしました。和白干潟は東アジアの渡り鳥の飛来地として重要なところであり、沿岸は塩生植物が豊富に育ち、自然海岸のある干潟として全国的にも貴重な自然です。1987年その和白干潟の全面埋め立て計画を知り、市議会に提出した「和白干潟保全」の請願書が採択され、和白干潟は保全されることになりました。翌年「和白干潟を守る会」を作り、保全活動を始めました。「自然観察会」「クリーン作戦」「調査」を環境保全活動の柱とし、開催してきました。ラムサール条約に登録されるよう署名活動をして請願書

を出しています。福岡市港湾空港局や他の保全グループと一緒に会議をして保全活動を続けています。埋め立ては免れましたが沖合の人工島の存在で海水の流れが悪くなり、水質悪化のためにアオサの大量発生や底質のヘドロ化を招き、底生動物や渡り鳥の減少が起きています。若い皆さんに身近な和白干潟の自然を守り続けていただきたいと思います。和白干潟の海底湧水のビデオ放映と山本代表のきりえを紹介し、「自分のできる方法で和白干潟や地球の自然を守ってほしい」と話しました。



★鹿児島・出水の ツル飛来地が ラムサール条約に 登録

2021年11月18日(木)付けで鹿児島の「出水のツルの越冬地」が、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約(ラムサール条約)の「国際的に重要な湿地に係る登録簿」に記載されました。

出水のツルの越冬地は478ヘクタールで鹿児島県北部の出水平野に位置し、干拓地を中心とした田園地帯で、冬季には多くのツルが飛来する場所として知られています。特に環境省レッドリストで絶滅の危険が増大している「絶滅危惧Ⅱ類」に分類されているナベヅルは、全世界の総個体数の約9割に当たる8000~1万羽が毎年飛来しています。

11月14日の和白海岸探鳥会では、とても珍しいクロヅルが1羽観察されました。和白干潟も福岡県でラムサール条約登録地第一番目となるよう願っています。

● 気が付いたらあなたも電話してください！

▼海辺のゴミやアオサをとってほしい時・自分たちでゴミを拾った時
092-282-7146 (福岡市港湾空港局 維持課)

▼沖のアオサをとってほしい時
092-282-7154 (福岡市港湾空港局 みなと環境政策課)



＊＊ お 願 い !! ＊＊

- 干潟でのゴルフやラジコンやドローンは危険です。やめましょう！
- 干潟や堤防でゴミを燃やすのはやめましょう！(ダイオキシン発生防止、ゴミの野焼き禁止)
- 犬のフンの始末は飼い主がしましょう！

● 弱ったり死んだ野鳥を見つけた時 → 092-513-5611 福岡県筑紫保健福祉環境事務所 地域環境課
092-643-3367 福岡県環境部自然環境課 野生生物係



活動日誌

(山之内 芳晴)

●2021年 9月

- 9/1 (水) 和白干潟通信139号編集会議
- 9/5 (日) 2021年秋期シギ・チドリ調査2回目 (今津)
- 9/6 (月) 2021年秋期シギ・チドリ調査2回目 (博多湾東部)
- 9/11 (土) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 9/12 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会) …関係者のみで観察
- 9/19 (日) 2021年秋期シギ・チドリ調査3回目 (今津)
- 9/20 (月) 2021年秋期シギ・チドリ調査3回目 (博多湾東部)
- 9/21 (火) 和白干潟通信139号編集会議
- 9/25 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察

和白干潟を守る会の 2021年5大ニュース

1. 延期が続いたガイド講習会が無事に開催できた
2. エクセレントNPO大賞にノミネートされた
3. 県にミヤコドリ保護の要望書を提出した
4. コロナ禍でも調査とクリーン作戦を続けることができた
5. 新しい会員が増えた

(2021年12月18日の定例会議にて)

●2021年 10月

- 10/7 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
- 10/10 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会福岡支部)
- 10/11 (月) イオン黄色いレシートキャンペーン
- 10/12 (火) 和白干潟通信139号発送会
- 10/23 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 10/24 (日) アオサのお掃除大作戦 (和白干潟保全のつどい)
- 10/30 (土) 唐原川お掃除し隊 (山・川・海の流域会議)
- 10/31 (日) 第23期和白干潟の自然観察ガイド講習会

●2021年 11月

- 11/11 (木) 「和白干潟保全のつどい」会議参加
イオン黄色いレシートキャンペーン
- 11/13 (土) 山・川・海の流域会議参加
- 11/14 (日) 和白海岸探鳥会 (日本野鳥の会福岡支部)
- 11/16 (火) 柏陵高校環境科学コース1年生の和白干潟観察会
- 11/20 (土) アオサのお掃除大作戦 (和白干潟保全のつどい)
- 11/27 (土) 定例会議・和白干潟クリーン作戦と自然観察
- 11/28 (日) 和白干潟通信140号編集会議
- 11/30 (火) 九州産業大学地域づくり学科2・3・4年次生への特別講義



干潟のつぶやき 「ハマボウが広がっている！」

ハマボウはアオイ科の落葉低木で関東以西の西日本に分布し、内湾海岸に自生する塩生植物です。和白干潟では牧の鼻に大きな群落があり、夏に黄色の大きな花を咲かせます。牧の鼻のハマボウは、2005年7月に1本のハマボウを発見したことが始まりです。綺麗な花を咲かせるので「たくさん増えていけば良いのに」と思いましたが、中々ほかの場所への広がりには遅く、10年程前には唐原川河口に1本幼木があるだけでした。しかし16年経った現在では海の広場や和白4丁目海岸、アシ原前砂州、唐原川河口などにも群落広がっています。中にはアシ原前砂州のハマボウのように砂州が波に洗われて根がむき出しの状態になり、何年か先には枯れてしまいそうなものもあります。しかし自然はたくましいもので1~2メートルの幼木は至る所に点在しています。毎年花を咲かせ、秋に種が潮の流れに乗って拡散して行き、後10年もすれば、和白干潟はハマボウで覆われてしまうかも知れませんね。



冬のハマボウ

10/31(日)第23期「和白干潟の自然観察ガイド講習会」

『和白海岸の海浜植物を学ぼう』16名参加

新型コロナの影響で延期を繰り返し、待ちに待った講習会が秋晴れの10月31日(日)に開催されました。

まず山本代表が和白干潟は全国でも数少ない自然海岸が残る貴重な干潟であることを紹介。「毎年自然観察会のガイドを育成するために専門の先生をお呼びして講習会を開いています」と挨拶のあと、講師の九州産業大学建築都市工学部教授で植物の専門家、内田先生の紹介をしました。

講習会ではまず、生物の分類について分類学の変遷を学びました。次に植生調査の方法として航空写真を基に植物の色分けをする「植生図」と一定のライン上に枠を作りその中の植物の占有率を6段階に分け記録する「ライントランセクト法」について学びました。

干潟では海の広場で「ライントランセクト法」を実際に体験し、アシ原では歩きながらウラボシの花やハマツナノ紅葉、赤く実をつけたアキグミなど多くの植物を観察し、説明を聞きました。再び「きりえ館」に戻り、あらかじめまとめていた質問をしたり、感想を話して有意義な講習会でした。(今林)



11/16(火)柏陵高校環境科学コース1年生29名の和白干潟観察会



爽やかに晴れた観察日和でしたが、近年にないほどの「アオサ」が堆積する中での観察会でした。生徒たちは山之内さんの紙芝居を使った干潟の働きや、そこに住む生物などの話を熱心に聞いていました。

バードウォッチングでは多くの鳥が観察されました。クロツラヘラサギやミヤコドリ、ミサゴなどを熱心に観察していました。オナガガモとカンムリカイツブリの潜り方の違いに気づいたり、自分で望遠鏡を操作してカモを熱心に観察する生徒もいたり、望遠鏡のまわりは歓声につつまれていました。

その後、分厚く積もった「アオサ」を踏み越えて砂浜に出て、コメツキガニやゴカイを探し、沖では浄化実験用のアサリやオキシジミを探し何とか実験はできましたが、アサリは少なかったです。最後に海の広場に戻り、浄化実験の結果を見せて、質問や感想などを聞きました。(今林)

★新年度会費の納入をお願いいたします！

今年も和白干潟を守る会の一員として、和白干潟の自然を守る活動のためにお願いします。

★年会費 個人2,000円、団体5,000円

★郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会



★同封の振替用紙をご利用下さい。

※郵便局の受領書を領収書に替えさせて頂きます。

※行き違いの際はご容赦下さい。

守る会問い合わせ窓口 ★ホームページ <http://wajirohigata.sakura.ne.jp>

◎入会／観察会（申込等）・・山之内 芳晴 Tel. 090-8412-2663

◎クリーン作戦……………田辺 スミ子 Tel. 090-1346-0460

◎広報／調査／定例会議……山本 廣子 Tel/Fax. 092-606-0012

◎干潟まつり……………中畠 伸子・松尾 満子 Tel. 090-9651-8489 (松尾)



★和白干潟を守る会2022年度総会を開催します！

■日時: 2月26日(土) 12時~14時 ■場所: 和白干潟を守る会事務所

総会では前年度の活動報告や会計報告を行い、新年度の活動方針やスケジュール、予算、役割分担などをみんなで意見を出し合い決定します。(引続き2月臨時定例会議を開催します)

★定例スケジュール★

●定例会議(1/22, 2/26, 3/26)

毎月第4土曜日12時~14時 守る会事務所にて開催。



★会員募集中！

年会費 個人 2,000円
団体 5,000円

★カンパの協力お願い

郵便振替 01720-4-23860
和白干潟を守る会

以下は参加自由です。仲間が待っています！

●クリーン作戦と自然観察(1/22, 2/26, 3/26)

毎月第4土曜日15時~17時 和白干潟・海の広場集合

※長靴があると便利。駐車場なし。

●和白海岸探鳥会(2/13, 3/13, 4/10)

毎月第2日曜日 9時~12時 JR和白駅前の和白公園集合

参加費: 野鳥の会会員 100円、一般 300円 主催: 日本野鳥の会福岡支部

★ボランティアへのお誘い★

和白干潟の清掃、鳥の調査のお手伝い(車の運転、記録)、観察会のお手伝い(写真撮影)などです。参加をお待ちしています！

和白干潟の鳥たち(その96)

ズグロカモメ(カモメ科 Saunders' Gull) 頭黒鷗 [全長32cm]

絶滅危惧Ⅱ類(環境省)・絶滅危惧Ⅱ類(福岡県)



(撮影: 三宅 僚)

ズグロカモメは冬鳥として和白干潟に10羽前後が訪れていましたが、2010年以降は越冬の記録がありません。渡りの途中に訪れているようなのです。2016年12月には54羽が立ち寄り、感動しました。また2021年11月にも7羽が観察されました。ズグロカモメは泥干潟にいるヤマトオサガニを主に食べるそうなので、砂干潟が主体の和白干潟では生息が難しいのでしょうか。

ズグロカモメは主に九州北部で越冬しています。世界で5000~7000羽しかいないと言われていましたが、現状はどうでしょうか? 博多湾の今津干潟や北九州の曾根干潟で越冬しています。ユリカモメよりも少し小さくて、くちばしも黒くて短く、黒い瞳が可愛い鳥です。上空で見ていてカニを見つけると、何度も急降下して捕まえています。また和白干潟で越冬するようになることを願っています。(山本 廣子)

【編集】松田 元・今林 眞由美・松藤 真理奈・山本 廣子・山之内 芳晴・田辺 スミ子
《カット》くすだ ひろこ ★次号は2022年4月発行予定★



【編集後記】今号より編集のメンバーに新しい人が加わりました。また今年の冬も和白干潟には沢山の鳥たちが越冬のために渡って来ています。沖合ではスズガモが列になりながら移動しており、潜水の上手なカンムリカイツブリは冠羽や白くて長い首が目立ちます。潮が引くと干潟には、ハマシギやシロチドリなども見ることが出来て感動します。(田辺 スミ子)